



# 校長通信

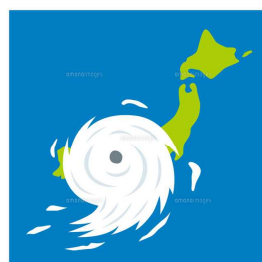
令和3年度 10号 令和3年9月6日

和歌山市立河北中学校 校長 戸川定昭

2学期が始まり、2週目に突入しました。遅刻・早退したりする生徒も、ほとんどなく、概ね全校生徒が、元気に登校しています。9月2日は、3年生は復習テスト、1，2年生は宿題テストを実施しました。落ち着いて、真剣にテストに取り組んでいました。

## 《紀伊半島大水害から、ちょうど10年！》

平成23年9月4日、台風第12号による大雨により、和歌山県を含む紀伊半島の南部を中心に深層崩壊や土石流などの土砂災害が多数発生し、多くの尊い人命が犠牲となる甚大な被害が発生しました。あれからちょうど10年経ちますが、遺族の方々の心の傷は、癒えることはありません。



私が住む有田市も、前日から大雨が降り続け、有田川の水量も膨大に増え、一家で避難しました。夜中、土砂降りの雨が、弱まることなく降り続け、恐怖で一睡もできませんでした。幸い、有田川は決壊することなく、大きな被害はありませんでした。しかし、日高地方以南では、至る所で、災害が発生しました。

次の日、月曜日、私は、通常通り、当時の勤務先、和歌山県教育庁（県庁南別館）に出勤し、仕事をしました。しかし、仕事で、紀南地方の市町村教育委員会に電話しても、担当職員が応答しません。ある教育委員会では、事務所が浸水していたり、また、職員が避難所の対応をしたり、通常業務ができない状況だったようです。当時、私は、市町村教育委員会と連携して行う仕事が多かったので、紀南地方にも、知り合いの教育委員会職員や、教職員が多く、被害を受けた地域のことをたいへん気になっていました。

その週末、9月10日（土）、復興作業の手伝いをしようと新宮市方面に、一人自家用車に乗って出かけました。熊野川沿いの国道311号線は、どろまみれで、なかなか思うように進めませんでした。電信柱の上の方に、軽トラックが引っかかっていたり、川面よりもはるか上にある橋の欄干に、大きな木や瓦礫が大量に引っかかっていたりして、災害時、もの凄い水量で川が氾濫したことが伺えました。

途中、道が閉鎖され、通行止めになっていたのも、その近くにあった公共建物に行き、職員らしき人に声をかけたのですが、まだ災害ボランティアセンターが立ち上がっていませんでした。しかたなく、車に乗り、付近の様子をうかがっていると、浸水で、どろどろになった家財道具を運んでいる方を見つけました。その人に声をかけ、家屋の整理をお手伝いしました。水に濡れた畳は、とても重く、作業は本当にたいへんでした。そちらの家族は、早い目に避難所に避難されたようで、家族の方全員、無事だったそうです。

今年のお盆は、前線が停滞して、全国各地で大雨が降りました。本来、西高東低の気圧配置で、晴天が続く時期です。地球温暖化などにより、ここ数年、異常気象が発生し、猛烈な勢いの台風が頻繁に発生したり、季節外れの大雨が降ったりしています。これから台風のシーズンです。日頃から非常時に備えた準備をしておくことと、早目の避難活動が重要かと思います。自分の命は自分で守る。ご家族で、災害時の対応について、話し合っておくことも大切かと思います。

